

Weekly Michael's News

＜今週の聖句＞

「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」
(新約聖書 ヨハネによる福音書 第12章 24節)

2016年10月10日発行 No.16

＜建学の精神である「仕える」を体で学ぶ!! 新しい奉仕者(サーバー)が続々登場!!＞

新学期、新しく礼拝の奉仕を申し出てくれた学生がたくさんいます!! こうやって学生の皆さんと共に作り上げていく礼拝。わずか15分ですが、そこに大きな意味と喜びがあります!!



白いキャソクに着替えて入堂



緊張したけど噛まずに読めました



ローソクの消灯もバッチリ!!(^o^)b

＜可能性に満ちた学生の眼差し…。先日の秋季卒業式に続いて、今度は秋季入学式を挙行!!＞

先日、1年半の日本語研修を経て秋季修業された外国人の学生さんが、今度は経済学部生として入学されました。また、経済学部編入を目指される国際別科生の学生さんも無事入学されました。皆さんの学びの上に神様の豊かな祝福と導きを心からお祈りしています!!



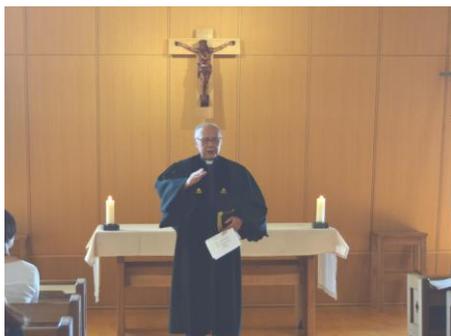
50名近い経済学部生が誕生!!



緊張の面持ちで入学する別科生



有意義な学びを期待される下村学長



前田理事長の祝福



秋晴れの空の下で記念撮影



和やかな雰囲気での別科生祝賀会

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月3日(月) 前田 次郎(理事長) テーマ:「傲慢になるなかれ」

今日の聖句であるコヘレトの言葉は、一見理解しにくい言葉も多いが、そこには必ず「意味」が存在する。今日の箇所では賢者コヘレトは、目的を忘れて歩む(聖書はこれを「罪」と呼ぶ)のではなく、正しい知識を持つように勧めている。我々の身の周りで、最も分かりやすい例として挙げられるのが、環境破壊であろう。自分たちの欲望のままに自然を貪り尽くした結果、引き起こされた災害には「想定外」という便利な言葉で言い逃れる。そんな傲慢な姿勢を世界に示している事で、技術立国としての日本の信用はもはや失墜してしまっている。裁きの神は、人間の傲慢を最も厳しく戒められる。時代を超えて人間の真理を語る聖書の言葉を、自らの指針としたい。

10月4日(火) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「安らぎはどこから」

8月下旬、「召命黙想会」に参加した。教会や修道院で、沈黙の中で自分を見つめ直す「黙想」を行うプログラムで、礼拝以外は一切喋らない。挨拶も不要という徹底ぶりに最初は戸惑ったが、TVやPCなど一切の情報機器から離れて静けさの中に身を置いてみると、礼拝で読まれた聖句が、また違った考えやメッセージを伴って心に響いてきた。癒しや豊かさが外から与えられると考え貪る事をやめない現代社会。しかし、真の豊かさや安らぎは、私たちの心の中、その静けさから始まる。いつでも沈黙を守られているKIUのチャペルに、その恵みの源を強く感じる。

10月5日(水)

※台風18号の接近により神戸市に暴風警報が出されたため、一斉下校となり礼拝は行われませんでした。この日は、経済学部3年生の山本 紗百合さんが講話を担当される予定でしたが、機会を変更し、10月11日(火)に行います。皆様、覚えてご参加ください。

10月6日(木) 市瀬 俊介(経済学部) テーマ:「日本語教育と異文化交流」

日本語教育が専門の私は、これまでインドネシアやカンボジアなどで日本語教師として働き、この大学では主に留学生に日本語を教えている。しかし最近心配になるニュースが、極端に国外へ出る事を恐れる若者の内向的傾向だ。この先10年で労働状況は激変するだろう。人工知能が発達し、今ある仕事のほとんどはAIに取って代わられるかもしれない。しかしそのような中でも人間同士のコミュニケーションを中心とした職種は無くなる事がない。希少言語である日本語は、国際競争力の面でも、世界的需要の面でも大きな価値を持つ。交流を通して、自分と異なる文化を理解する(異文化理解)生き方を大切にしていきたい。

10月7日(金) 中原 康貴(チャプレン) テーマ:「必要のない人間はいない」

神様は一匹の羊、一人の人間も絶対に見捨てません。神様はこの世の全ての人を心から愛しておられます。神様にとって必要のない人間、いなくなって良い人間など一人もいません。神様はどんなに重い障がいを持った人も、どんなに重い罪を犯した人も見捨てません。イエス様は重い障がいを持った人と共に歩むために十字架を背負い、重い罪を犯した人と共に歩むために十字架に架かられたのです。皆さんは神様に死ぬほど愛され、神様は決して皆さんから離れることはありません。どうか、その事をしっかりと心に刻み、日々の生活を一步一步、踏みしめてください。

(文責:野間光顕)